



7 研修第 18 号

(令和 8 年 1 月)

発行: 宇治市乳幼児教育・保育支援センター

アドレス: nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp



## 令和 7 年度 乳幼児教育・保育協働研修通信



### テーマ 保護者支援

令和 7 年 12 月 11 日(木)

**第 19 回**研修会(発達・子育て支援分野)  
を開催しました。

18 名の先生方(保育所 2 名・幼稚園 3 名・認定こども園 8 名・療育施設 5 名)と  
7 名の関係部署の職員等と一緒に学び合いました。

※ この研修通信は、研修会にご参加いただいた皆様はもとより、園内の体制等でご参加いただけなかった皆様にも研修会での学びの一端が伝わることを願って、研修会終了後の参加者による『振り返りシート』をもとにまとめたものです。



#### デモンストレーションと解説

「乳幼児を育てている保護者への支援について」

～意図の交流に着目して～

講師 宇治市保健推進課

発達相談員 古田 直樹

#### 本日のデモンストレーション

指示役 1 名と指示の受け手役 1 名

- ① 受け手役は、廊下で待機、指示役に講師から指示を伝える(ホワイトボードの黒板消しを会場後ろの椅子まで運んで置く)、受け手以外の参加者は全員、指示の内容を一緒に知らされている。
- ② 受け手が会場内に戻ってきてスタート。指示役は、受け手が正しい行動をした時のみブザーを鳴らす。(正しい行動の時はブザーが鳴ることは受け手も教えてもらっている)



**ブザーで意図を知らせて  
みよう!**



デモンストレーションと解説の中で、心に残ったこと(参加できなかった仲間に知らせたいこと)

## 意図の共有

### 肯定

- ブザーを鳴らす(「yes」の時)だけで意図を伝えることの難しさがよく分かった。そして、ブザーだけで意図を汲みとらなければならない側の不安も伝わってきた。否定だけでなく肯定で相手に意図を伝えていきたいと思った。
- 言語でのコミュニケーションが使えない場合、いろいろなものを活用しながら伝えることや肯定的な発信がポイントになること
- 自閉症の子どもにとって、「みんながわかっているのに自分だけわからない」→「なんとか自分の知っていることをしてしまおうとする」→「自分なりの意味のあることにしがみつこうとする(ex.こだわり)」というところが印象的だった。制止や禁止、「そうじゃない」という関わりではなく、「そうだよ」「できたね」と肯定することで子どもにとっても分かることをたくさん作っていくような支援をみんなで考えていきたい。
- ほめたり、良いといった関わりの方が、意図が伝わりやすく、注意や叱ったりは伝わりづらく、「何をしたら良いのか」となりやすいという所は重要であると思った。
- 「たくさんの言葉をかけて」「たくさん関わってあげて」という言葉を保護者に伝えること。多様に使ってしまうがちなので、言葉も無意味に投げかけたらいいというものじゃなく、意図を共有して関わることに意味があることを伝えたい。
- たくさんの声かけではなく、その子に届く言葉で声かけをすること
- 大人は子どもへすぐく意図を持って関わっている。大きなベクトル⇒は、子どもにとって不安なことだ。少し下げると不安取り除くことができる。子どもの意図を汲みとって、子どもの意図に沿うことが大切だということが心に残った。

### 不安

- デモンストレーションを見ていて、なかなか伝わらず、もどかしくなった。こんな気持ちを常に自閉症の子どもは抱えているのかと知ることができた。
- 分からない事への不安(周りから見たらどうしてなのだろう?)という行動でも、その子なりの意図がある。それを表現している事を忘れずに支援しようと思った。

### その他

- 人はこうだと思ったこと(見えたもの)をくつがえすのは難しいということ。児発においても、「ああこうだろうな」と思って支援していないかというところは事業所でもみんなで考えていきたい。
- 保護者がその子どもを育てていく自信を得ることが支援していく上で大切なことだ。

- 講師の先生が、保護者から聞かれた「にこにこしていないと幸せが逃げる気がする」という言葉、保育の中でも自分の人生の中でもこの考え方はとても大事だなと感じた。



## 保育所・幼稚園・認定こども園で活かしたいこと



注意や禁止の声かけをするより褒めることを大切に、声かけをしていきたい。

園で困っていることを伝えるだけでなく、保護者が困っていることは何かを聞き出し、園での様子とすり合わせながら、その子にとってより良い支援ができるようにしていきたい。

子どもの行為・行動に合わせた声かけをしていくことで、「わかってきている」と子ども自身が大人に安心感や親近感を感じることができるような関わりを大事にしたい。

保健師や発達相談員が今後の業務で活かしたいこと

良い事に対してOK、わかりやすく伝えていくこと保護者支援に活かしたい。

保護者との話の中でも意図を汲みとること、保護者がわかりやすい表現をしていきたい。

一人の子どもしか見ていない保護者の気持ちを汲みとることが大事だと思った。

その子に伝わるタイミングでその子がわかる関わり方で伝わったと思ってもらえるようにしたい。

障害特性を持つ児、その親の支援に自分も不安を感じていたが、見通しを持ったり、児や親の気持ちを少し理解できたような気がするのでフォローに活かしたい。

言葉だけでなく、ジェスチャーやパペットなどいろいろ試しながら子どもたちとコミュニケーションを取っていきたい。

課題を伝えるだけでなく、課題に対する具体的な支援や方向性を伝えていくこと

## 療育施設で活かしたいこと

現実的なところに希望が出てくる。この子どもはこう育てたらいいのかなと感じて見通しが持てるよう、具体的な支援の提示をして保護者が子育てに自信を得られるためにはどう関わっていくか考えていきたい。

禁止では伝えられない、それでいいよと褒めて伝えることで行動の指針が見えてくる。→ほめて伝える。

子どもが今どういう状態でどうしていけばよいかを伝える。

現実根付いたホープを保護者に持ってもらうこと

